

山田みやこの活動報告

平成30年7月31日(金)

2018(平成30年)年度 性暴力を考える講座(第1回)

栃木県からの委託事業として認定NPO法人ウィメンズハウスとちぎが主催

講座 1

「性暴力被害者の理解と支援」について

周藤由美子氏(性暴力禁止法をつくろうネットワーク共同代表・京都SARA共同代表)から講演。

性暴力とは、身体の尊厳と性的自己決定を侵害するの「魂の殺人」とも言われ、被害者に深刻な心の傷(トラウマ)を与えるもの。7割以上が知っている人からの被害。若年時の被害が多く8割が10年以上前の被害半数が誰にも言えなかった。警察に訴えるのはわずか3.7%。警察に行っても被害者を受け取ってもらえない。事件化されない場合も多く、客観的な証拠を重視。

京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター(京都)SARAでは電話相談、来所相談、同行支援、公費負担の医療費、10回カウンセリングを行っている。深刻な二次被害、強姦神話も問題。

110年ぶりに刑法改正された。

- ・性暴力が重大な犯罪であることを社会に示す
- ・強盗罪よりも強姦罪の法定刑の下限が低い状況が改善

しかしまだ改正が必要な点は多々ある。

性暴力被害者を孤立させない、社会の意識を変える。性暴力被害者支援法の制定に向けての動きをしている。

今年度中に全国に性暴力被害者ワンストップ支援センターを設置。栃木県はすでに3年前に設置しているが更なる関係機関と連携し、支援の充実に努めていくことが求められる。

<2018年7月31日「性暴力を考える講座」>

第1講座「性暴力被害者の理解と支援」

講師：周藤由美子

(性暴力禁止法をつくろうネットワーク共同代表・京都 SARA)

【講師プロフィール】

ウィメンズカウンセリング京都フェミニストカウンセラー。
京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター(京都SARA)スーパーバイザー
性暴力禁止法をつくろうネットワーク共同代表
NPO法人日本フェミニストカウンセリング学会・フェミニストカウンセラー協会認定フェミニストカウンセラー資格取得。
個人カウンセリングやグループトレーニング講師のほか、性暴力裁判での意見書作成などのアドボカシー活動にも取り組む。
大学や行政のセクシュアル・ハラスメント専門相談員も兼任している。
著書に「セクハラ相談の基本と実践」(新水社)、共著に「フェミニストカウンセリングの実践」(世界思想社)などがある。

<2018年7月31日「性暴力を考える講座」>

講座2「虐待を経験した子どもへの支援」

講師：松本和子(NPO法人女性ネット Saya・Saya 代表理事)

【講師プロフィール】

NPO法人女性ネット Saya・Saya 代表理事。(社会福祉士・精神保健福祉士)
精神科ソーシャルワーカーとして勤務後、2000年6月、DV等暴力被害女性の民間支援団体として、女性ネット Saya・Saya を開設。現在、NPO法人女性ネット Saya・Saya で、カウンセリング、及びサポートグループ、びーらぶ(暴力被害女性とその子どもの同時並行心理教育プログラム)などを担当。他に、各地域での、DV被害者支援養成講座講師、びーらぶの1対1か養成講座講師、千葉市ケース検討会議スーパーバイザー、母子生活支援施設の相談員など。

講座 2

「虐待を経験した子どもへの支援」について

松本和子氏(特定非営利活動法人Saya-Saya理事長)から講演。

子ども達への虐待が後をたたない、その背景にあるDV(面前DV)。

DVは児童虐待、DVを見たり聞いたりしている子どもへの影響は思った以上に大きい。その影響はDV環境を離れたあとまで長く続く可能性も高いDVの子どもの影響は、不適切な養育が子どもの脳を傷つける。暴言は身体的暴力の6倍もの影響がある。暴力で前頭前野の萎縮、暴言で聴覚野の肥大、暴力を見ることで視覚野の萎縮がみられる。思春期になると将来にダメージを与える可能性がある。そこで心理療法等の適切な支援が必要。

将来への希望を取り戻すのは、過去のトラウマの見方に意味を持たせて、将来に対する適応的なものの見方に発展させていく。子どもはスポンジのように周りの環境から吸い取る。

Saya-Sayaは、大人になるまでの継続的な支援を行ない、

「かけがえのないたったひとりの大切なひと、そのままのあなたがステキ、生きているだけで素晴らしい」というメッセージをしっかりと伝えている。

子どもは困難があっても乗り越える力、自尊心を持つことができる。

長年に渡り子ども達への支援を行ってきた松本氏の言葉は一言一言、心にしみわたる。

虐待環境から立ち直るために、大人ができることは、

「安心・安全・尊重」

「子どもに選択肢を与え、主体的な決断を尊重する」

「子どもの気持ちを聴き、尊重した対等なやり取りをすること」

子どもにとって親、養育者、周りの身近な大人に認められることは健康な人生を作る基盤になる。

子どもは大人の評価を気にする、決して評価しない。一緒によりそうことで困難を乗り越える力ができる。

かけがえのないたった一人のひと、そのままのあなたがステキ。こんなメッセージをしっかりと伝えられる社会になっていったら、子ども達にとってなんて素晴らしい将来になっていくのではないのでしょうか。